

東京都駐車場の指定管理者の管理運営に関する二次評価
(令和5年度実施分)

東京都八重洲駐車場
(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	A
管理状況	・ 設備保守や利用者サービスの向上など、選定要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始に職員や警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同による総合防犯訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 地域のまちづくりの動向や駐車需要を見据えた上で、周辺再開発や駐車場の改修予定を考慮して定期契約台数の調整を行うなど、八重洲等5場全体での効果的な運用を図っている。
事業効果	・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両の受入れや、カーシェアリング事業者への定期貸付など、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 電気自動車の充電設備設置、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 閉鎖期間のなかった平成30年度と比較して、総利用台数が9,189台(+5.4%)、時間貸利用台数が25,913台(+18.3%)増加した。 ・ 地元の防犯パトロール等に参加し地域の安全確保、活性化に貢献した。 ・ 利用者アンケートによる利用者満足度は、全ての項目で評価が高かった。

東京都宝町駐車場
(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	A
管理状況	・ 設備保守や利用者サービスの向上など、選定要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始に警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同による総合防犯訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 改修中の日本橋駐車場から定期契約車両の多くを受け入れるとともに、時間貸の車室数が限定される中、混雑時には職員が場内誘導を行い、効率的な運用を図っている。
事業効果	・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両の受入れや、カーシェアリング事業者への定期貸付など、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 電気自動車の充電設備設置(200V普通充電器を2台新設)、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 前年度と比較して、総利用台数が6,232台(+5.3%)、時間貸利用台数が8,915台(+9.2%)増加した。 ・ 地元の防犯パトロール等に参加し地域の安全確保、活性化に貢献した。 ・ 利用者アンケートによる利用者満足度は、全ての項目で評価が高かった。

東京都新京橋駐車場

(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	A
管理状況	・ 設備保守や利用者サービスの向上など、選定要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始に警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同による総合防犯訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 地域のまちづくりの動向や駐車需要を見据えた上で、周辺再開発や駐車場の改修予定を考慮して定期契約台数の調整を行うなど、八重洲等5場全体での効果的な運用を図っている。
事業効果	・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両の受入れや、カーシェアリング事業者への定期貸付など、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 電気自動車の充電設備設置、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 前年度と比較して、総利用台数が9,053台(+6.5%)、時間貸利用台数が12,104台(+10.7%)増加した。 ・ 地元の防犯パトロール等に参加し地域の安全確保、活性化に貢献した。 ・ 利用者アンケートによる利用者満足度は、全ての項目で評価が高かった。

東京都東銀座駐車場

(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	A
管理状況	・ 設備保守や利用者サービスの向上など、選定要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始に警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同による総合防犯訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 地域のまちづくりの動向や駐車需要を見据えた上で、周辺再開発や駐車場の改修予定を考慮して定期契約台数の調整を行うなど、八重洲等5場全体での効果的な運用を図っている。
事業効果	・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両の受入れや、カーシェアリング事業者への定期貸付など、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 電気自動車の充電設備設置、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 前年度と比較して、総利用台数が3,178台(+2.7%)、時間貸利用台数が4,778台(+4.8%)増加した。 ・ 地元の防犯パトロール等に参加し地域の安全確保、活性化に貢献した。 ・ 利用者アンケートによる利用者満足度は、全ての項目で評価が高かった。

東京都板橋四ツ又駐車場
(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	A
管理状況	・ 設備保守や利用者サービスの向上など、選定要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始に警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同による総合防犯訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 天井からの漏水のため閉鎖中の車室がある中で、修繕により利用可能車室を確保するなど、継続的な工夫により効率的な運用を図っている。
事業効果	・ 近隣の工事現場、公共施設、周辺企業等に案内チラシを配布し、駐車場利用の向上を図った。 ・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両やパーク＆ライドの受入れなど、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 電気自動車の充電設備設置(200V普通充電器を2台新設)、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 大規模改修に伴う車室利用の制限がある中、前年度と比較して、その利用実績を概ね維持した。(総利用台数が1,146台(－1.8%)、時間貸利用台数が492台(－1.1%)減少) ・ 地元町内会や商店街等との更なる連携を進め、地域の安全確保、活性化に貢献することを期待する。 ・ 利用者アンケートによる利用者満足度は、全ての項目で評価が高かった。 ・ 都が行う大規模改修に際し、都との連絡調整、定期契約者への周知及び利用車室の調整等の折衝を計画的かつ丁寧に行い、改修の実施に大きく貢献した。

グループ名	都市部の公園・東部グループ
指定管理者名	アメニス東部地区グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
1	猿江恩賜公園	A	・グループ全体として、東京東部特有の地域に根ざしたコミュニティの力をうまく取り込んで、地元参加の公園運営が進められている。宇喜田公園のハーブガーデンでの自立的な緑のコミュニティ育成など、各園での個性的な取組の成長が評価できる。 ・猿江恩賜公園では、コミュニケーションロボットのUniboを活用したイベントを実施し、スタッフの負担軽減に向けた実証実験や利用者動行データの自動収集を行うなど、DXを活用した取組を進めた。	A
2	亀戸中央公園	B	・亀戸中央公園では、「遊びキャラバン」を開催し、自然や季節を感じさせるイベントを実施した結果、多様なニーズへの対応が評価され、アンケートによる満足度も約90%以上の高い水準となっている。また、サザンカ名所復元の取組に関して、サザンカマップのリニューアルやHP掲載など、広報を充実させた。	B
3	尾久の原公園	S	・尾久の原公園では、「季節の展示」、「季節のフェスタ」において、区内福祉施設、学校、市民団体等の関係者による制作・運営への協働・協力体制を構築し、都民参加の促進による公園の活性化に寄与した。また、新たな企画「park:motto」では、「餅花づくり」、「まき割り」といったユニークなテーマを月ごとに設定しイベントを開催するなど、公園の魅力向上に寄与した。さらに、12月の「季節のフェスタ」では「見る！知る！守る！おぐのはら防災2023×ユニバーサルウォーク」と題して、官民7団体による防災イベントを開催し、起震車体験や災害救援車両の展示など各々の役割や取組をアピールするとともに、防災減災への意識啓発を行った。そのほか、公園としての一体性が表現できており、地域住民との日常的な交流が定着してきている。公園の個性が明確となり地域に一層溶け込みつめる点を評価する。	S
4	東綾瀬公園	B	・東綾瀬公園では、草の成長速度を考慮して作業計画を再検討し、柔軟な対応を行うとともに、ロボットの試験導入により作業効率の向上を図った。樹木点検にてマークしていた危険木が無風状態で倒木する事故を受け、グループ全体に事故概要と事故防止対策の配信を行った。また、大経木管理に重点的に取り組み、大規模な剪定作業を実施し住宅地の公園管理課題に積極的に取り組んだ点を評価する。 ・中川公園では、管理所前にウェルカム花壇や季節を感じるフォトスポットを継続設置することで、幅広い年齢層の方が撮影に多数訪れ、好評を得た。	B
5	中川公園	B	・大島小松川公園では、六価クロム対策を徹底し、安心安全を確保した。また、新たな取組として、園内に咲く草花を写真に撮り、解説を添えた「花のカード」を作成して来園者に配布を開始するとともに、今年度から4年ぶりに臨時売店を再開して来園者の利便性向上に努めるなど利用者サービスの充実が図られている。さらに、近隣小・中学校の児童・生徒の職場体験を受け入れ地域連携を図った点や、「行幸対応」、「団体利用」等への適切な対応、遠足での利用等を通じて利用価値を高めた点を評価する。今後、高齢者施設や障がい者施設での利用場所としての活用も期待する。	B
6	大島小松川公園	A	・宇喜田公園では、ハーブガーデンのラベンダーが評判となり、他園や近隣の花壇管理者から指導の依頼や苗の提供等の要望が多数あったことに加え、HPで公開している活動記事がきっかけとなりテレビ放映されるなど、更なる広報効果を生み出した。また、スポーツ広場で発生した不法占拠について、毅然とした対応により撤去を実現し、施設の適正利用に貢献した。	A
7	宇喜田公園	B		B

グループ名	都市部の公園・南部グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
8	日比谷公園	S	・グループ全体の取組として、歴史・文化的なロケーションを活かしたイベントや公園の特性に応じた多彩なプログラムを展開し、各公園の魅力向上に貢献した。また、開園120周年を迎えた日比谷公園や開園150周年を迎えた芝公園において、周辺企業や地域ボランティア等と連携した様々な事業を実施し、地域のつながりを強化したことは評価に値する。 ・日比谷公園では、パークミーティングでのつながりを活かし、120周年事業の映画イベント等、周辺企業や団体と連携した取組を実施することで、まちと公園の回遊性を向上させた。また、周年特設HP開設やニーズを捉えた情報発信など、効果的なPRによりXのフォロワー数が年度当初比126%となったほか、新たに企業版プチボラを開始し、多くの人へ社会貢献活動の場を提供したことが評価できる。	S
9	芝公園	A	・芝公園では、開園150周年を記念し、地域ボランティア等と連携した魅力的なガイドツアーを定期的に開催したほか、もみじ谷ライトアップを例年より拡大して実施し、紅葉のピークにあわせた「ナイト映えさんぽ」や「ミニコンサート」を実施するなど、更なる公園の魅力向上に貢献した。	A
10	青山公園	B	・青山公園では、同色で段差を視認することが困難と思われる階段に、誰でも段差をわかりやすく視認できるような識別シートを設置し、利用者の安全を確保した。また、近隣企業と連携し、日本文化を発信する美術館や商店を自転車で巡るといった、青山の地域特性を活かした五感と知的好奇心を刺激するコンテンツを提供することで、地域活性化に寄与した。 ・林試の森公園では、大学と協力して4種の樹木ガイドマップをリニューアルし、多種多様な樹木を紹介したほか、SDGsパークセンターとして教育機関と連携することで研究の場としてアピールし、公園の魅力向上させた。また、近隣10自治会とのパークミーティングを初開催し、防災に関する公園の取組を紹介するとともに、今後の訓練に関する調整を熱心に行うなど、地域連携の強化に貢献した点も評価できる。	B
11	林試の森公園	A	・蘆花恒春園では、ボランティア団体やNPO法人との協働により、園内竹林の発生材を使用した竹ランタン製作のワークショップを開催し、徳富蘆花旧宅母屋前に飾りつけてライトアップを行うなど、東京都指定史跡や公園の魅力向上に貢献した。また、保育園と連携した防災訓練を実施することなどを通じて、地域の防災力向上に寄与した。	A
12	蘆花恒春園	B	・祖師谷公園では、「祖師谷公園スケートボード協会」と連携して「初心者体験教室によるマナーアップ」を実施し、子どもたちへのルール周知とマナー向上を図った。また、「たねだんごイベント」の実施にあたり、ボランティア、保育園等との良好な関係を継続し、園児が職員・ボランティアの顔と名前を憶えることで、見える安全・安心かつ地域の繋がりを強化した点が評価できる。	B
13	祖師谷公園	A		A

グループ名	都市部の公園・北部グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
14	戸山公園	A	・グループ全体の取組として、関東大震災から100年の節目にあたり、公園特性に応じた連携訓練を実施し、地域の防災力向上に寄与した。また、各公園において地域的なテーマやニーズに応える企画を行うことで、多様な都民の参加を促進したほか、親子参加や教育機関との連携を通じて地域全体の協力につなげていく高いコーディネートスキルが評価できる。今後は、地産野菜を使ったイベント等、地産のものをアピールする取組等をさらに進め、地域の魅力向上に一層寄与することを期待する。	A
15	善福寺公園	A	・戸山公園では、「内藤とうがらしプロジェクト」において、土3,500ℓを堆肥化する「土の再生プロジェクト」を立ち上げ、様々な団体を巻き込みながら地域全体でSDGsを推進した。また、園内にスポーツセンターを有する戸山公園ならではの企画として、新宿区トライアスロン連合との連携により「2023新宿アクアスロン大会」を開催したほか、「特別かけっこ教室 運動会で使える走り方のポイント教えます！」や「SOTOヨガ」等、過去最多となるスポーツイベントを開催し、健康増進に貢献した。	A
16	高井戸公園	A	・善福寺公園では、視覚障害者施設との連携により開催した「視覚に頼らず自然に触れる園内散策ガイド」において、植物・野鳥ボランティアとの協働により五感をフル活用するプログラムを企画・提供するなど、社会包摂を意識した事業にも積極的に取り組んだ。また、都や区と連携し、公園出入口のバス停留所において、車いすでも円滑な乗り降りが可能となるようバリアフリー整備を実施し、インクルーシブな利用環境を整えた点も評価できる。	A
17	浮間公園	S	・高井戸公園では、区やNPOとの連携により、滑車ロープやハンモック、泥んこ遊びなど、子どもの自主性を尊重したイベント「出張プレイパーク」を開催し、公園への新たなニーズの掘り起こしを図った。また、「あおぞら防災会議」を地域連携強化によりバージョンアップし、かまどベンチやマンホールトイレの組立体験、家族で防災マップを作成するワークショップ等、より実践的な防災イベントを実施したことで、地域一体となった防災力の向上に寄与した。	S
18	赤塚公園	A	・浮間公園では、近隣保育園との連携により、親子向けの紙芝居やミニゲームのワークショップを園内の広場で実施する「青空保育園」を初開催し、子育て世代の地域コミュニティの場を創出したほか、「UkiUkiマルシェ」等の収入を財源に運用した「1万本のチューリップ事業」では、近隣保育園や地域のボランティア団体とともにチューリップの球根の植え付けを行い、地域価値や公園の魅力向上に寄与した。また、「うきうき親子釣り体験」においては、特定外来生物を回収し堆肥にする園内資源循環型の取組「ブルーギルバイバイプロジェクト」の解説も行い、生物多様性の普及啓発を進めた点が評価できる。	A
19	石神井公園	A	・赤塚公園では、保育園との連携で「花育」活動を開始し、ボランティアとともに花苗を植え付け、その後も「お水あげ隊」として定期的に活動するなど、園内美化と環境学習の推進に寄与した。また、関係各所への積極的なアプローチにより、地域の自治会、教育機関、企業、ボランティアほか23団体を集め、多様な団体から意見や提案を募る「パークミーティング」を初開催し、公園管理への積極的な地域参画の機運を醸成した点を評価する。	A
20	大泉中央公園	B	・石神井公園では、牧野記念庭園との連携による地域周遊ツアーの開催やサステナブルイベント「THINK ETHICAL PARK DAY」において地域の9団体を新たに加えるなど、積極的に地域コミュニティとの連携を図ったほか、社会的な課題に着目し、児童養護施設の子供たちに落葉清掃やかまどベンチを使用した防災体験に取り組んでもらう等、社会貢献を念頭に置いたプログラムを実施し、公園の特性を活かしたアプローチでインクルーシブに貢献した。	A
21	練馬城址公園	B	・大泉中央公園では、夏休みイベント「夜の生き物観察会」において、子供たちが園内の生物について関心を持つ機会を創出し、公園の魅力向上に寄与した。また、農業が盛んな立地を活かして、園内の花壇に新たに「キッズファーム」を設置し、近隣中学校やNPO法人等との連携により実施した食育プロジェクトは、地域連携を深める取組として評価できる。	B
			・練馬城址公園では、新規開園に伴い、計12団体と共に地域主体の開園記念イベントを実施し、「地域でつくっていく公園」という協働の下地を築いた。また、5月の開園記念イベントではかまど野外卓を活用した火おこし体験、11月には地域と連携した「あそぼうさいフェス」、12月には「地域連携防災訓練」を実施するなど、防災意識の向上に寄与した。	B

グループ名	武蔵野の公園グループ
指定管理者名	武蔵野の公園パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
22	武蔵野公園	B	・グループ全体として、愛犬家のマナー向上を目的とした「犬のマナーアップキャンペーン」を開催することで、都立公園で共通するルールとして利用者に働きかけ、効果的に実施している。 ・武蔵野公園では、スポーツ広場の整備が決定した後、スケボー広場内のセクション撤去を指導し、都がスムーズに整備の準備を行うことができた点を評価する。また、懸案事項となっていた園内の長期滞在者について、府中市が委託する支援団体や警察と連携して継続的に説得を行った結果、施設利用の適正化に結び付けた。	B
23	浅間山公園	A	・浅間山公園では、地域協議会「浅間山を考える会」を年4回実施し、園内で行うイベント、調査、維持管理などに関し、産官学民多様な主体を巻き込みながら計画、報告、意見交換を行った。同会関係者と協働で「キスゲフェスティバル」、「森キッズクラフトDAY」、「冬鳥の観察会」など、年間を通じて様々なイベントを実施し、地域一丸となった公園を拠点とした魅力的なコミュニティづくりを着実に進めてきた点を評価する。また、地元府中市との連携について、市主催の「環境まつり2023」に出展、1月には市主催の「新春スタンプラリー」にラリーポイントとして協力するなど、連携を強化した。	A
24	野川公園	A	・野川公園では、広域連携による国分寺崖線の保全活用の推進を目的とする「第3回はけの自然とくらしのフォーラム」を開催した。フォーラムでは、環境省の「自然共生サイト」をテーマにし、参加した崖線の所有や管理に関わる35団体85名に、取組を広く周知した。本フォーラムの開催により、国分寺崖線沿いの関連団体の連携を促し、崖線環境を保全する体制づくりを推進した。また、夏休みの子供たちを対象とした「キッズレンジャースクール」では、より多くの子供たちに裾野を広げるための環境教育プログラム「いきものなぜなぜ質問箱」を実施した。ウェブサイトやSNSなどで広報した結果、都内のみならず遠方からの参加者の獲得につながり、公園に訪れる多様な世代の方から好評を得た。	A
25	玉川上水緑道	B	・玉川上水緑道では、市民団体と連携した順応的管理により、絶滅危惧種であるキンランの生育数が回復したことに加え、地元中学校と連携して実施した選択的除草により、同じく絶滅危惧種であるショウリョウバッタモドキが生息するようになり、希少種の保全に貢献した点が評価できる。	B
26	武蔵国分寺公園	S	・武蔵国分寺公園では、地元NPOとの共催によりキッズイベント「あそぶの森」を開催し、他団体と連携することで魅力的なプログラムを実現した。特に、「景観×自然」のコラボガイドウォークでは、ガイド中に参加者が撮影した写真をSNS上で集約し、管理所前に設置したデジタルサイネージにて参加者が撮影した風景の発表会を行うなど、デジタル手法を活用した公園の魅力向上策を実施した。また、市民の提案を実現する「『あつたらしいな』をみんなで作る公園プロジェクト」として、「うくフェス」、「てのわ森の中美術館2023」、「お散歩ビンゴで秋を楽しもう」など、一年を通じて多数のイベントを開催した結果、他県からの来園者を含む延べ8,668人が来場し、イベントの満足度は90%以上と好評だった。さらに、水質浄化装置の導入により、カイツブリの繁殖回数・個体数増加や、ヒバカリ等絶滅危惧種を初確認するなど、水辺環境の改善に寄与している。	S
27	東伏見公園	B	・東伏見公園では、人気遊具のローラー滑り台について通常点検を実施するほか安全性に万全を期すため積極的に精密点検を実施したことで、ローラーの破損リスクをいち早く発見し交換を行うなど、利用者の安全性を向上させた。また、地元中学校との連携により選択的除草を行うなど、ばったランドの重点管理を行い、新たに絶滅危惧種を確認するなど生物多様性の向上に寄与した。	B
28	六仙公園	B	・六仙公園では、「あつたらしいなをみんなで作る公園プロジェクト」として地域団体・市民とともに「麦の収穫祭～東久留米麦まつり～」を開催した。公園周辺で活躍する様々な団体・市民が集い、地域の産業や伝統を近隣に発信するとともに、地域住民をつなぐコミュニティ形成の場を創出する取組として評価できる。六仙公園の在り方の方向性が見えつつある年度であり、今後はより多くの緑の確保と水場のユニークな利用法の模索を行いながら、公園を取り巻くコミュニティの継続的拡大を期待する。	B

グループ名	多摩部の公園グループ
指定管理者名	多摩部の公園パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
29	陵南公園	A	・グループ全体として、新人スタッフの導入研修を通じて、維持管理に必要なスキルや知識の習得を促すことで、公園管理の質を向上させるとともに、防災クイズイベント等の地域の防災力を高める取組を行った。また、犬のマナーアップキャンペーンや野鳥観察マナーアップキャンペーンを実施し、来園者のマナーの向上と公園の利用環境改善に貢献した。その他、公園ごとに異なるテーマを立てることで、個性的で充実した内容の取組を進め、企画への参加者を増やしている点が評価できる。 ・陵南公園では、多世代向けプログラムを複数実施しており、継続を希望する声が多数寄せられるなど、高い評価を得ている。特に、参加者に心身の健康を促す機会を提供する「ここからSmile FES」では、多様な健康促進プログラムが展開され、地域の多世代が集う健康フェスティバルとして成功を収めた。「カエル救出ボランティア」を結成する等、ユニークな試みも含め大幅な利用者数となったことが評価できる。さらに、建物清掃について、外部有資格者による清掃状況の診断・評価を受けることにより、客観的な視点による衛生品質の向上に努めた点を評価する。	A
30	小宮公園	A	・小宮公園では、これまで継続的に行われてきた生物多様性対応として従来の希少生物保全の取組や自然的景観への配慮に努め、地域連携を強化している。特に、高齢者団体に働きかけ、健康の場として提供しつつ、八王子市高齢者支援アプリ「テクボ」のポイントとして活用できるようにしている点や地域連携で開催したイベント「子どもシティ」を開催するなど、世代に偏ることなく、多世代の需要と関心に対応したイベントを企画している点が評価できる。また、開催3年目にあたる「冬＊カフェday」、2年目にあたる「初夏＊カフェDay」にて、昨年度のアンケート結果を踏まえた新規プログラムの導入などにより利用者サービスが向上し、高評価を得ている。そのほか、Instagramを開始し美しい画像を多く提供している点や、景観の改善に向けた取組も評価でき、今後の展開に期待する。	A
31	滝山公園	B	・滝山公園では、滝山観光まちおこし実行委員会に参画することで、歴史講演と寸劇、忍者体験プログラムを通じて子供たちの体力向上と地域の歴史学習を促進した。地域団体との協力により多様なイベントを開催し、滝山城の魅力を広く伝えることで地域観光の活性化に寄与した。 ・大戸緑地では、利用者ニーズに応え「大戸緑地冬開きDAY」を開催し、親子が自然の中でクラフトを楽しみ、ワードラリーで里山の冬景色を体験できる、自然を活かしたプログラムを実施することにより、地域連携による環境保護意識の醸成に寄与した。また、施設をマイクロツーリズムの拠点とする意図やその取組も評価でき、今後は、各種プログラムだけでなく、景観の改善を意識した取組に期待したい。	B
32	大戸緑地	B		B

グループ名	狭山丘陵グループ
指定管理者名	狭山丘陵パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
33	狭山・境緑道	B	・グループ全体として、生態系保全への取組や、ボランティアの育成等により自然環境や風景の魅力づくりに関わる費用対効果を高めている。特に子供の参加プログラムは、地域の環境に関わる人材育成という視点からも、高く評価できる。各公園において景観の改善に向けた取組を拡大し、事業効果が発現することを期待する。 ・狭山・境緑道では、老朽化した階段や土留等、改修要望を受けて改善策を検討、施行し、利用者の安全を確保しつつ景観の維持に成功している。特に、昨年度からの要望であった児童遊園へ繋がる階段改修では、緑道の景観にも溶け込んだ仕上がりとなり、高齢者・幼児にも利用しやすい施設に改善された。また、景観の改善に向けた取組も評価できる。	B
34	狭山公園	A	・狭山公園では、「さやまKIDS DAY」、「SAYAMA HILLS DAY」などの親子で参加可能なイベントを継続して開催し、前年度を上回る来場者数を記録した。また、園内巡回に電気自動車を導入し、CO2排出量軽減の一助とし、伐採したナラ枯れ被害木をイベント資材として活用するなどしてSDGsの推進に寄与した。さらに、広域のナラ枯れ調査にドローンを活用することにより効率的な維持管理を行った。これまでの試みの延長として各種行事を実施していることに加え、当該年度は、ヘルシーパークとしての視点を取り入れるとともに、電気自動車の導入など改善に向けた継続的取組の観点から評価できる。	A
35	八国山緑地	B	・八国山緑地では、関東大震災100年の東京都・東村山合同総合防災訓練に参加し、広域避難場所としての機能の周知のためブース出展を行い、防災機能の周知と関係機関との連携強化を行った。また、水辺植物の発芽促進のため湿地帯を創出した結果、希少生物が確認されるなど、効果的な生物保全活動に取り組んだ。さらに、アメリカザリガニ対策としてナマズを導入したことを評価する。	B
36	東大和公園	B	・東大和公園では、GISマップを活用した樹木調査により広範囲の樹木の状態を把握・管理し、アカマツ保全のために約40本の樹幹注入を実施するなど、松枯れ対策を積極的に行い、アカマツ林の保全に取り組んだ。 ・野山北・六道山公園では、延べ3,700人以上が参加した活発なボランティア活動や、里山民家の収穫祭など、公園施設を生かしたイベントを開催し、積極的な都民参加や施設の魅力向上につながる取組を効果的に実施している。また、狭山丘陵周辺の6市町からの後援を得て「狭山丘陵フォトロゲイニング2024」を開催し、都県境を超えた参加者を集め、アンケートにおいて高評価を得ている。さらに、広域のナラ枯れ調査にドローンを活用することにより、効率的な維持管理を行った。	B
37	野山北・六道山公園	S	・中藤公園では、パークモニタリングアプリの運用を継続し、スマートフォンを使用した画像・位置情報の共有により、野生生物の生息調査の実施と調査結果のデータベース化を実現して、効率的な維持管理につなげた。また、景観の改善に向けた取組は評価できる。	S
38	中籐公園	B		B

グループ名	多摩丘陵グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
39	長沼公園	B	・グループ全体の取組として、小山内裏公園、小山田緑地、桜ヶ丘公園での12公園連携企画において、自然への関心を高める機会を提供し、多摩地域全体の認知度向上に貢献した。また、学校との連携プログラムやキッズレンジャー体験イベント等を通して環境教育を推進し、環境保全の担い手育成を図った。土砂災害が増加する中、小山田緑地、桜ヶ丘公園において、復旧対応や、リスクを踏まえた土砂災害対応を実施した点は評価できる。 ・長沼公園では、GISの活用により、データの一元管理と可視化を通じて業務効率を向上させ、環境保護に配慮した伐採申請や迅速な報告を実現した。また、初開催のキッズレンジャー体験イベントでは、参加者に自然観察の新たな視点を提供することで環境教育を推進したほか、個別指導による丁寧な解説により参加者の満足度を高め、環境保全への意識を高める有効な手法であることを示した点が評価できる。	B
40	平山城址公園	B	・平山城址公園では、キッズレンジャー体験イベントにおいて、参加者の年齢に合わせた、見る、聴く、触る、嗅ぐといった五感に訴える体験プログラムを提供することで、教育的な体験と自然保護への意識を育んだ。また、ボランティアと連携した年間保全活動において、絶滅危惧種の新たな発見と保護柵の設置を行い、生物多様性の保全に重要な役割を果たした。	B
41	小山田緑地	A	・小山田緑地では、エコパッチの保全を行い、生物にとって良好な生育環境を創出することで、希少種のナンバンギセルの株数が前年比約3.5倍となるなど、生物多様性の保全に貢献した。また、「トイレone up!」プロジェクトにおいて、利用者の意見を反映させた施設改善、アートギャラリーの設置、多言語によるアクセシビリティの向上等を実現し、公園の魅力と利便性向上に寄与した。そのほか、従来からの施策に加え、バラスポーツ入門プログラムを初開催するなど、意欲的に公園を盛り上げていこうとする姿勢も評価でき、今後は緑地環境を活かした種目を新たに実施するなど、更なる公園の魅力向上に期待したい。	A
42	小山内裏公園	A	・小山内裏公園では、近隣小学校の体験型課外学習において、シオヤトンボの生息地の草刈りや水生生物調査等の環境保全活動を実施し、保全活動の担い手の育成につなげた。また、公益財団法人東京動物園協会と連携し、シラカシの発生材をゾウの飼料として提供することで、発生材の有効活用と処理費用削減に寄与した。さらに、ボランティアや近隣団体などとのパークミーティングの取組により、今後の事業実施に向けた地域連携の足掛かりを築いた点は評価できる。その他、ホテル観察会を初めて開催したことも生物保全活動の観点で評価でき、範囲拡大の検討が期待される。	A
43	桜ヶ丘公園	A	・桜ヶ丘公園では、「SATOYAMAアウトドアライフ×ぼまるのおうち連携企画」において、自然素材を活用した創造的な遊びを提供するワークショップを開催し、公園の新たな魅力を発見する機会を提供した。また、斜面地において土砂崩れが発生した際は、GPSを活用した発生原因の特定や関係者との立会い、応急補修を迅速に実施するなど園内の安全確保に努めた取組は評価できる。	A

グループ名	大神山公園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次 評価	二次評価	
			評価内容	評価
44	大神山公園	A	・大神山公園では、マイクロプラスチック回収活動において、新たにZ世代を中心とした団体と連携し、若者が参加したくなるイベントとして広報活動を強化したほか、マイクロプラスチックで作ったコマを使ったコマバトル大会を開催するなど、アップサイクルに繋げる工夫を行い、環境保全に貢献した。また、屋外での映画祭を開催したほか、利用機会の少なかった園地を整備し、海の目の前で休憩できる新たな空間を創出することで、ワーケーションなどの新たなニーズを開拓するなど、公園の新たな活用につながる取組により、魅力向上に寄与した。	A

グループ名	防災公園グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
45	東白鬚公園	B	・グループ全体の取組として、関係団体等と連携して実施した防災事業において、要配慮者を対象とした訓練や親子で楽しめるプログラムの実施など、地域の特性に応じたプログラムを展開し、地域の防災力向上に貢献した。 ・東白鬚公園では、地域の課題である高齢者の引きこもり対策として、地域で活動する団体と連携し、歴史的な旧跡を歩いて巡るガイドツアーを開催した。理学療法士を招き、疲れない正しい歩き方指導も取り入れ、高齢者が安心して参加できるよう工夫することで、外出のきっかけや交流の場、健康増進の機会創出に寄与した。	B
46	木場公園	B	・木場公園では、たねダンゴづくりなど自然遊びを体験できるイベント等で、子供に自然の豊かさを感じてもらうような場を提供したほか、木場ミドリアムでのアート展示や下町文化フェスティバル、「木場公園防災DAY2023」の開催など、地域に根差したイベントを実施し、施設の魅力向上につなげた。	B
47	砧公園	A	・砧公園では、初参加の自治体等、様々な団体と連携し「2023防災フェスタin砧公園」を実施することで、防災への相互理解を深め、昨年度の6倍近い約2,000人が参加するなど、地域防災の普及啓発に貢献した。また、遊びや音楽を通じて、障害のある人もない人もともに楽しみながら交流できるイベント「スペシャルデー」を初開催し、インクルーシブな遊具広場「みんなのひろば」の意義等の普及に努めた。	A
48	駒沢オリンピック公園	A	・駒沢オリンピック公園では、「駒沢ファンタジア」において、地域で活動している団体によるステージやワークショップ、物産展等を実施し、地域コミュニティとの連携を促進した。また、キャンドルアートの制作や同時期に開催された「花と光のムーブメント」に合わせたナイトコンサートの実施等、相乗効果を生み出したことで、来場者数が昨年度の2倍以上となり、地元の魅力・価値の向上に寄与した。	A
49	代々木公園	S	・代々木公園では、規模を拡大して実施した「防災ライフ・フェスタ」において、昨年度比で125%の約2,500人が参加したほか、警察署より感謝状が贈られるなど、防災機能の充実と普及啓発につなげた。また、バスケットボール大会の開催や大会参加者が清掃活動を実施する「PICKUP PLAY GROUND」の取組を進めたことに加え、利用者との意見交換を通じての利用者自身のモラル醸成のほか、近隣学校等との連携により公園から出た廃棄物等を活用した取組を行い、循環型公園を実現した。	S
50	善福寺川緑地	A	・善福寺川緑地では、野球場内野フィールドの全面補修工事や肥大化した周辺樹木の剪定により、大・小野球場ともに降雨後に使用できるまでの時間を50%から70%まで短縮するなど、効果的に施設の機能維持を向上させた。また、関係団体との連携により実施した地域連携防災訓練の中で、多くの地元住民と協働し、今後の地域防災の担い手の連携・育成への大きな足掛かりをつくり、地域の防災力向上に努めた。	A
51	和田堀公園	A	・和田堀公園では、都のモニタリング結果をもとに和田堀池のゾーニングやバードバス設置を実施したほか、コウホネ再生や水生植物の生育に向け、池の水環境を改善し、埋土種子等の発芽を促す取組を推進するなど、生物多様性の向上を図った。また、初めて開催した大規模防災イベントでは、公園内での倒木による負傷者の救出救護訓練や倒木除去訓練等を実施し、都立公園における防災、減災に向けた取組への普及啓発、理解の浸透に貢献した。	A
52	汐入公園	A	・汐入公園では、「汐入まつり」において、最新のダンスや音楽が楽しめるステージショー、話題のグルメを堪能できるキッチンカーの誘致等、若年層も楽しめるプログラムを実施したことで、延べ来場者が過去最高の約9,000人を達成するなど、幅広い世代の都民参画を促した。また、4年ぶりの開催となった隅田川花火大会では、「緊急時案内番号システム」の新規導入や仮設トイレの増設・洋式化等により、観覧者の利便性向上を図った。	A
53	城北中央公園	B	・城北中央公園では、都立公園開園150周年に合わせて「古代フェスティバル」への参加希望者の受け入れを拡大した。また、地域連携合同防災訓練を初めて開催し、停電を想定した情報伝達訓練を実施したほか、備蓄の大切さを伝えて自助の意識を醸成するなど、公園を核とした地域連携や協力関係を強化し、災害への備えを広めた点が評価できる。	B
54	光が丘公園	B	・光が丘公園では、「公園フェスタ」において、新規の商業施設等、地元を中心に前年開催時の倍増となる15団体が参加し、2日間合計で約4,000人が来場するなど地域交流の拡充による賑わいの創出に大きく貢献した。また、近隣高校と連携訓練を行ったほか、防災フェスタでは看護学校の生徒と連携して応急手当訓練を実施するなど、地域防災の担い手育成に大きく貢献した。	B

グループ名	防災公園グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
55	舎人公園	A	・舎人公園では、ネモフィラ花壇を利活用し、珍しい赤色の花を咲かせる品種「高嶺ルビー」と白い花のソバの2色の「ソバ花壇」を整備したことがSNS等で話題となり、「ソバ花壇」を目的に来園する方が増えるなど、公園の魅力向上に貢献した。また、地域団体や企業等と連携して「防災フェス2023」を開催し、体験型プログラムを充実させることで、参加人数が前年比140%の約15,000人に達するなど、地域一帯の防災対応力向上に貢献した。	A
56	水元公園	A	・水元公園では、葛飾区と連携して地域連合町会が参加する地域連絡協議会を開催し、水害対策及び発生時の初動対応についての講話や意見交換を実施したほか、防災訓練や町会による炊き出し訓練を実現し、地域連携による防災力向上に寄与した。また、近隣小学校で実施した防災出前授業では、職員作成の対象年齢に合わせた分かりやすいスライドを使用し、避難時の流れや防災公園としての役割、防災施設についての知識を習得してもらうなど、教育機関への防災啓発に貢献した。	A
57	篠崎公園	B	・篠崎公園では、「アジサイまつり」において、職員の提案で幅広い世代が楽しめるプログラムを提供し、前年比3倍の約1,500人が参加するなど公園の魅力発信に寄与した。町会等が参加した公園連絡協議会においては、防犯・防災情報の共有、公園を取り巻く課題の共有を図ったほか、震災時・水害時の「知識・備え・訓練」を整理し、各町会・自治会の地域防災力を推進した。	B
58	葛西臨海公園	S	・葛西臨海公園では、サービスセンターからカヌー・スラロームセンターまでの526mの園路に視覚障がい者誘導施設を敷設し、駅からカヌー・スラロームセンターまでを1本で繋ぐことで、視覚障害者にやさしい園内誘導を実現した。また、駅からクリスタルビューまでをフランスのテアトル広場に見立て、「伝統・文化・芸術・地域」をテーマに初開催したアートマルシェでは、参加者が約4,000人に達したほか、地域で活躍する団体を巻き込み実行委員会を立ち上げるなど、葛西地域の活性化に寄与した。	S
59	武蔵野中央公園	B	・武蔵野中央公園では、近隣住民、地元自治体や警察・消防及び近隣団体等と連携して開催した防災フェスタにおいて、初期消火訓練・応急救護訓練・煙体験などの体験型訓練を行い、約2,000人が参加するなど、地域の防災意識向上に貢献した。また、利用頻度が高く裸地化及び基礎が露出していた野外卓について、ニーズを踏まえて車いすに対応できるよう改修するなど、利用者サービスを向上させた。	B
60	府中の森公園	A	・府中の森公園では、障害のある子どもを対象とした遊具体験会において、分身ロボットを導入し、遠隔で遊具を体験できるようにするなど、DXを活用した先進的な事業を展開したほか、遊具広場を地域の人々で見守り・利用促進につなげる「にじのかけはしプロジェクト」を開始し、継続したインクルーシブマインドを醸成したことは評価できる。	A
61	武蔵野の森公園	B	・武蔵野の森公園では、公園出入口の自転車危険走行に関する長年の住民要望について、都と協議を重ね、園路入口に看板とポールを新規設置したほか、警察等と連携して自転車マナーアップキャンペーンを実施し、利用者の安全確保につなげた。また、重要無形民俗文化財に指定された「八王子車人形」を招致したイベントを開催し、世代を超えて家族で楽しめる公園づくりを行い、地域の交流活性化を推進した。	B
62	小金井公園	A	・小金井公園では、地元で活動しているスケーターを講師に招いて開催した、「子どもスケートボード教室」において、五輪競技を身近なものとしたほか、ルールを学んで安全安心な利用につなげた。また、公園主催イベント「ココロの日」では、「AIと子どもたちが描く未来の公園」等新たな体験型コンテンツの導入により、前年比約3倍の3,000人が来場するなど公園の魅力向上を図った。	A
63	東村山中央公園	B	・東村山中央公園では、アニメコラボイベントにおいて、公園が核となって関係機関との連携を強化し、地域振興と地元への愛着の醸成につなげたほか、参加した高校生が地元の祭りの運営に協力するなど、人と人との繋がりにより地域活性化に貢献したことは評価できる。また、防災連絡協議会での意見を受けて、自治会保有の防災機材を活用した実践的な訓練を実施し、地域防災力の強化に寄与した。	B
64	東大和南公園	B	・東大和南公園では、自然系セルフガイドシートを新規制作（9種類）し、観察会やセミの抜け殻展示イベント、スタンプラリー等で活用したほか、HPの掲載により拡大配布するなど、自然情報の発信に貢献した。また、パリオリンピックの新種目「ブレイキン」のイベントを実施し、遊具のない公園に新たな遊びのプログラムを展開したことは評価できる。	B
65	秋留台公園	B	・秋留台公園では、新たなDXの活用として分身ロボットを導入し、福祉施設と公園を繋ぎ中継することで、来園の難しい方にもバラ鑑賞の機会を提供するなど、公園利用者層の幅を広げた。また、新規の取組であるランニングイベントを開催し、ランニングの楽しさだけでなく、スポーツを通じて社会貢献するきっかけや都市の緑化、SDGsの意識向上にもつなげたことは評価できる。	B

グループ名	文化財庭園グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
66	浜離宮恩賜庭園	S	・グループ全体の取組として、都立9庭園のスケールメリットを活かし、JRと連携した「紅葉めぐりスタンプラリー」を開催した。参加状況分析に基づく広報強化等により、紅葉期に集客を図ったほか、窓口でのキャッシュレス決済の取扱い種類の拡大、機器入替による処理速度向上など、グループ全体で利用者サービスを向上させた。また、庭園の作庭意図や歴史的背景等を踏まえた景観の保全回復、改修等を進めたほか、維持管理技術・技能を継承するためのノウハウの蓄積と次世代を担う人材育成を行ったことは評価できる。そのほか、夜間イベントのような魅力的な企画を実施するなど、インバウンドを含む観光資源としての庭園の見せ方やサービスの質が向上している点も評価できる。	S
67	旧芝離宮恩賜庭園	A	・浜離宮恩賜庭園では、「三百年の松」について、樹勢に合わせた手入れにより主要景観保持に努め、手入れ過程をタイムラプス動画で公開することで庭園への関心を喚起した。また、複雑な仕様の庚申堂鴨場大観等の補修を行うとともに、若手職員への伝統技術の継承、育成を実施した。さらに、御茶屋や鴨場、馬場など歴史的に貴重な場所の認知度を高めるイベントや、SNSを活用したタイムリーな情報発信など、インバウンドへのアプローチも積極的に行い、庭園の魅力を発信したことも評価できる。	A
68	小石川後楽園	S	・旧芝離宮恩賜庭園では、ARを用いたガイドシステムを構築し、西洋館を映像上で復活させ、大山から海が見える往時の庭園の再現、歴史的人物と撮影できる機能を搭載するなど、これまでにない手法で庭園の歴史を楽しみながら学べる機会を提供した。また、5月に開催した「旧芝離宮夜会」では、多くの企業と連携し、2部制チケットの導入や誘導の工夫によるスムーズな運営を実施したことで昨年度比148%の約5,000人が来園するなど、エリアマネジメント事業者との連携の下、企業との協働を図り、庭園の魅力の周知及び竹芝エリア全体の魅力向上に寄与した。旧芝離宮恩賜庭園の独自性を強調した取組や地域との協働を図った点は評価できる。	S
69	六義園	A	・小石川後楽園では、初開催した夜間特別開園において、ライトアップ、陣幕の設えと和の軽飲食提供、伝統芸能公演等、多彩なコンテンツを提供し、庭園の魅力を高めた。また、白糸の滝の滝囲い復旧に向けて効果的な補植を行ったほか、「蓬萊島」の往時の景観を回復させるため、絵図や史資料・有識者意見等を踏まえた植生回復に取り組むなど、当園の景観を守り、未来に繋げていくための植生管理を行った点も評価できる。	A
70	旧岩崎邸庭園	S	・六義園では、夜間特別観賞において、六義園八十八境の由来となった和歌を印象的に伝える新演出を導入するなど、施設の魅力向上に寄与した。また、六義園とゆかり深い和歌山市による講演会を初開催したほか、小中学校や大学の研修等を受け入れ、庭園維持管理作業を体験できるプログラムを提供し、文化財継承及び次世代の人材育成に尽力した。	S
71	向島百花園	B	・旧岩崎邸庭園では、新管理所の開所に伴い、車椅子で自走可能なバリアフリールートに改善した。また、建築史の観点から旧岩崎邸を解説する講演会を開催するとともに、ガイド向けに特化した講演会も行うことで、ガイド自身の知的好奇心にも応えた。さらに、「旧岩崎邸で楽しむ特別な四日間」では、芝庭を活用した辻狂言の公演を行ったほか、洋館の地下等を探訪するミステリーツアーを拡大開催するなど参加型のイベントを充実させ、庭園の魅力向上に寄与した。	B
72	清澄庭園	A	・向島百花園では、創始者の子孫による講演会を開催し、庭園と周辺地域の歴史解説や向島百花園の「なぜ」に答えるコーナーにて、復興の歴史や草庭を維持管理する細やかな取組を紹介するなど、庭園の歴史的価値と魅力の発信に寄与した。また、「ハギのトンネル」更新工事を実施し、ウメを主体とする草庭の景観との調和を意識しながら制作し更新したほか、作業実施に併せて他庭園から研修生を受け入れることで、グループ全体の維持管理技術の向上及び技術の継承に取り組んだ。	A
73	旧古河庭園	A	・清澄庭園では、「関東大震災100年パネル展示」において、復興に貢献した「深川親睦園」の歴史を振り返るパネルを作成したほか、警察・消防等のブースを設けて防災用品リストを配布するなど、地域防災力の向上に資するとともに、震災被害から復興を遂げるまでに庭園が果たした役割を知る機会を提供した。また、「アートパラ深川おしゃべりな芸術祭」に実行委員として参加し、会場利用ルールの周知やタイムスケジュールの調整、ボランティアスタッフの接遇マニュアル製作等、イベント開催に積極的に協力することで、地域活性・社会貢献への役割を果たした。	A
74	殿ヶ谷戸庭園	B	・旧古河庭園では、利用者自身が撮影したバラ写真でオリジナルのバラ図鑑を作ることができるスマホアプリ「旧古河バラコレ」を大学との連携により製作・導入し、新しいバラ鑑賞の楽しみ方を創出するとともに、バラ名所としての庭園の価値を高めた。また、史資料写真等に基づき、経年により肥大成長が顕著となり平面性が維持できなくなった洋館前の花壇・生垣・芝地の景観改善を進め、植替え更新・切下げを実施し、往時の景観へと回復したことも評価できる。	B
			・殿ヶ谷戸庭園では、伝統技能見学会を年2回の開催に拡大し、「マツのミドリ摘みとハギのトンネル紹介」を開催するなど、ニーズを捉え庭園での作業体験の提供回数を増やしたことは評価できる。また、七イベントでは、JR国分寺駅からの協力を得るなど地域との連携を企画に結び付けたほか、市共催による散策ツアーの充実を図り、関係団体とのネットワーク構築と連携による庭園の普及、地域の魅力発信につなげたことは評価できる。	

グループ名	神代植物公園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次 評価	二次評価	
			評価内容	評価
75	神代植物公園	A	・神代植物公園では、大学と提携し、バラの品種自動判定アプリ「バラノナ」を新たにリリースしたほか、企業連携により園内のVR動画が楽しめる「バーチャル360」を公開し、DXを活用した新たな楽しみ方を提供した点が評価できる。また、小山田緑地の都工事予定地に自生するコシオガマを公園サービスセンターと連携して保護したほか、御岳山レンゲショウマ群生地 of 育成管理や種子増殖の助言を行うなど、希少植物保全に貢献した。	A

グループ名	夢の島公園・夢の島熱帯植物館
指定管理者名	アメニス夢の島グループ

No.	施設名	一次 評価	二次評価	
			評価内容	評価
76	夢の島公園	B	・夢の島公園では、年2回の植物交流会及び不要植木鉢等道具交換会を定期的かつ継続的に実施し、SDG sの推進を行っている。江東区社会貢献活動ネットワーク「こらぼら」の開催や地域回遊型イベントを実施することで、地域の活性化と施設の魅力向上に寄与している。 ・夢の島熱帯植物館では、小笠原支庁や小笠原村観光局との連携により、文化や生態系、小笠原固有種に関する展示を行い、生物多様性の普及啓発に努めた。これに加え、植物館で育成している固有種に関して現地の都レンジャーからの研修を受けるなど、希少種の保全に関する知識の更なる習得に努めた。さらに、SNSを駆使した戦略的な情報発信や、若手アーティストのポップアップ展、夜間開園など、多くの人の関心と呼ぶ企画の効果もあり、閑散期である3月の入場者数が昨年度比1.8倍となるなど、来園者数が増加したことは高く評価できる。また、園芸関係の物々交換会等を実施しており、今後は、オンライン取引も含めこの分野の中心地となることを期待したい。このほか、施設老朽化等が見受けられる中で施設・植物の維持管理を着実に進め、安定的な施設運営を実現した点は高く評価できる。なお、展示においては、現在、案内板やQRコードが新旧混在していることから、解説内容の見直しのほか、デザインや閲覧方法の統一により、利用者の利便性・満足度の更なる向上を期待する。	B
77	夢の島熱帯植物館	S		S

グループ名	潮風公園・台場公園
指定管理者名	東京臨海副都心グループ

No.	施設名	一次 評価	二次評価	
			評価内容	評価
78	潮風公園	B	・潮風公園では、東京都都市公園制度制定150周年記念事業「Its My Park Day!」への取組として月ごとのテーマに合わせたイベントを開催したほか、上野恩賜公園で開催された150周年文化祭に出展するなど、都の政策と連動した事業を実施した。 ・台場公園では、木製人止め柵の補修を広範囲にわたって実施することで安全性を確保したことに加え、名城にふさわしい景観のため、冬季は公園入口にある松3本に 「雪吊り」を実施し、日本の伝統文化や名城にふさわしい美観を整えた。	B
79	台場公園	B		B

グループ名	横網町公園
指定管理者名	公益財団法人東京都慰霊協会

No.	施設名	一次 評価	二次評価	
			評価内容	評価
80	横網町公園	A	・横網町公園では、「震災・戦災の教訓の継承と防災意識の普及啓発」に向け、職員の熱意と創意工夫により関東大震災100年の特別企画をはじめとした周年事業等を積極的に展開した。これらの取組により、認知度の向上や外国人を含めた入園者の増加につながった点は評価できる。また、史料のデータ化に加え、収蔵品の貸出し、取材対応、動画の作成（文芸賞受賞）等により広範囲にわたる発信が行われており、効果的に普及啓発を図った点も高く評価できる。	S

グループ名	東京臨海広域防災公園
指定管理者名	西武造園株式会社

No.	施設名	一次 評価	二次評価	
			評価内容	評価
81-1	東京臨海広域防災公園	B	・東京臨海広域防災公園では、大規模花壇を活かし、花や四季に触れる楽しさや参加者同士のコミュニケーションを育む講座を実施し、近隣県からも応募があるなど、公園の魅力向上に寄与した。また、ボランティア参加者の育成のため、外部の専門家を招聘し、専門的な知識を学ぶ機会を提供したほか、関係機関と連携した「ぼうさいモーターショー」を実施し、防災力の向上につなげた。	B

グループ名	東京臨海広域防災公園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次 評価	二次評価	
			評価内容	評価
81-2	東京臨海広域防災公園	B	・東京臨海広域防災公園では、都立公園150周年記念事業として、国営公園のイベントと連携し、防災を身近に感じる体験型イベント「防災パークフェスティバル」を開催した。両公園のプールの双方向の利用を促すスタンプラリーを実施したほか、かまどベンチで災害時の調理まで経験できる講座などを実施し、参加者からも好評であり、施設の魅力向上に寄与した。	B

グループ名	明治公園
指定管理者名	Tokyo Legacy Parks 株式会社

No.	施設名	一次 評価	二次評価	
			評価内容	評価
82	明治公園	B	・明治公園は、令和5年度においては開園後の調整業務を進めており、今後の公園管理運営における本格的な事業展開を期待する。また、多くの参加者があった開園イベント等の開催、樹名板の設置、まちづくり協議会等との連携を開始したことについて、今後も都民参加・地域連携の取組が継続的かつ発展的に展開していくことを期待する。	B

グループ名	日比谷公園大音楽堂
指定管理者名	東京南部パークスグループ

No.	施設名	一次 評価	二次評価	
			評価内容	評価
83	日比谷公園大音楽堂	A	・日比谷公園大音楽堂では、「日比谷野音オープンデー2023」において、野音100年史の年表や100周年記念コンサート出演アーティストの直筆サイン、普段見ることのできないアーティストのステージ衣装などを展示し、野音の音楽施設としての歴史と果たしてきた役割、価値を広く発信した。また、「日比谷音楽祭2023」では、台風2号の影響を受けながらも延べ15万人の来場者、オンライン視聴者数27万人、総再生回数57万回という過去最多数を記録し、翌日のTVや新聞、WEBでも多数取り上げられるなど、「フリーでボーダレスな音楽祭」として野音のみならず日比谷公園全体の魅力向上に繋げた。音楽会利用可能日の拡大等の取組により、利用者の大幅増加に寄与した点も評価できる。	A

グループ名	都立動物園
指定管理者名	公益財団法人東京動物園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
84	恩賜上野動物園	A	・グループ全体として、令和4年度の多摩動物公園における鳥インフルエンザ陽性事例発生への教訓を活かし、都立動物園・水族園4園について施設改修の基本方針を決定するとともに、対応マニュアルを全面改訂し、鳥インフルエンザ発生時の対応力を向上させた。 ・恩賜上野動物園では、開園150周年総合文化祭に関するイベントや、「世界ゴリラの日」に関連したイベントを開催し、SNSを活用した情報発信を行うことで、X（旧Twitter）インプレッション数や取材件数について目標を大きく上回る成果が挙げられるなど、普及啓発や園の魅力発信を拡充させた。また、開園150周年総合文化祭に参画し、トークイベントの実施や多種多様な企画展示を行うなど、150周年事業に大きく貢献した。さらに、ゴリラ・トラの住む森の観覧通路の舗装老朽化に伴い、木材チップによる打ち換え舗装を実施し、踏み心地が良く、かつ景観にも適した観覧環境の提供を実現した。麻酔装置の操作手順を誤り、シマスカンクの死亡事故が発生した。	A
85	多摩動物公園	B	・多摩動物公園では、アフリカゾウの拔牙治療に向けて北米ゾウ拔牙専門家チームとのミーティングを重ね、技術交流等を目的に国外に職員を派遣するなど、国際的な連携により高度かつ専門的な技術を発展させた。昆虫園本館の水栓の閉め忘れによる床上浸水事故、園内で複数の車両事故等が発生した。	B
86	葛西臨海水族園	S	・葛西臨海水族園では、「サンゴ礁の海」等の展示水槽にLED照明試験や脱窒濾過方式などの新技術を採用していることに加え、新水族園の外洋水槽への利用を念頭に新たな脱窒装置の試験機を開発し、技術開発を着実に進めた。また、生物観察や生物採集など実体験を通して学ぶ学年別のシリーズプログラムや、DXを活用した遠隔地と水族園をつなぐ多彩な環境教育プログラムを展開し、園の魅力発信と効果的な教育普及を実現した。さらに、SNS等を駆使した戦略的な広告宣伝を行い、春期のWEB広告全体では合計200万を超える閲覧数が得られ、各種イベントの活性化に貢献した。	S
87	井の頭自然文化園	B	・井の頭自然文化園では、夜間開園イベントを開催し、延長時間帯の入園者数は昨年度比2.5倍となる入園者数を記録した。当該イベントでは、HPにおける広報・PRに取り組んだことに加え、SNS、スマホアプリ広告などのWEB媒体を駆使した戦略的な広告宣伝を行い、効果的な情報発信を図った点も評価できる。また、彫刻園利活用の一環として、彫刻作品の保存方法等について理解を深めるワークショップや園内施設・動物をテーマにした創作怪談のスタンプラリーを企画するなど、動物だけでなく文化・芸術も楽しめる井の頭自然文化園の特性を活かした事業を実施し、園内施設の魅力を最大限に発現させる工夫を図った。リス繁殖棟で使用した寄生虫駆除薬剤が原因とみられるリスの死亡事故が発生した。	B

グループ名	東京都霊園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
88	青山霊園	A	・青山霊園では、近隣保育園や区福祉施設と連携し、都整備の広場の愛称に関する候補案を作成するなど、霊園と地域のつながりを強化した。また、初の試みとして、近隣の団体や自治体等と連携して防災訓練を実施し、災害時の対応能力向上に寄与した。令和5年度において、過年度に誤った許可を行ったことが発覚した。	A
89	谷中霊園	A	・谷中霊園では、将来の支障木となり得る多数の実生木を処理し、墓地への被害を未然に防いだ。また、著名人墓所の多言語によるルート案内を行うQRコードを作成したほか、江戸から続く風習「釣忍」を職員自ら作成し設置するなど、外国人利用者ニーズに応える取組を進め、霊園の魅力向上に努めた。	A
90	雑司ヶ谷霊園	B	・雑司ヶ谷霊園では、春彼岸の時期に墓参ができない方々を想定し、崇祖堂のリモート墓参動画を撮影し、東京都公園協会公式YouTubeで配信した。また、墓参動画だけでなく、「おもいでコンサート」の様子と雑司ヶ谷霊園の四季の風景の配信を行うことで、霊園の魅力発信に努めた。	B
91	染井霊園	B	・染井霊園では、立体埋蔵施設第2区・3区の工事について、東部公園緑地事務所・委託業者による定例会議への出席や、仮設の電気引き込み等についての立会い、近隣住民からの工事に対する質問へ回答するなど、都事業への積極的な協力を行った。	B
92	八柱霊園	B	・八柱霊園では、管理料の誤請求、管理料請求対象者への納入通知書未発送及び受領印鑑登録証明書の紛失事故など、複数の事故が発生した。	B
93	八王子霊園	A	・八王子霊園では、芝生に甚大な被害をもたらすイノシシについて、超音波式害獣忌避装置の増設と侵入経路対策等により、平成28年度比で被害を50%減少させた。また、管理所建替工事に伴い、来園者の熱中症対策として会議室を休憩スペースとして開放し、管理所前に日除けテントとミストシャワーを設置するなど、利用者サービスの向上に努めた。	A
94	多磨霊園	B	・多磨霊園では、100周年事業として、「歴史・著名人墓所ガイドツアー」や「デジタルスタンプラリー」などを1年間にわたり展開したことにより、地域との連携を深め、著名人墓所や自然環境の活用等、霊園の持つ価値を掘り起こしての魅力発信を行った。	B
95	小平霊園	B	・小平霊園では、都民協働の取組として、近隣保育園と園内の竹の間伐材を活用した七夕飾りを作成し、年齢を問わず地域に開かれた霊園として地域住民に親しまれる空間を提供した。	B

グループ名	瑞江葬儀所
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次 評価	二次評価	
			評価内容	評価
96	瑞江葬儀所	A	・建替工事により施設利用の制限がある中、利用者への丁寧な案内、着柩時間を前倒した受入時間の拡大、モニター増設、職員・警備員間の連携強化など施設管理上の工夫を凝らしたことで、苦情や混乱、火葬件数減少や火葬時間遅延を未然に防ぐことで、的確に火葬業務を遂行した。また、地元町会、消防署、江戸川区と連携し、震災を想定した地域防災訓練には近隣住民約100名が参加し、地域住民の防災意識向上に貢献した。	A